

**ポスターA-6****ポスター発表(研究)****日系インドネシア人コミュニティにおける高卒モデルの事例研究  
—茨城県東茨城郡大洗町における移住労働者とその子どもたちのために—**

佐々木 良造 (秋田大学)・吹原 豊 (福岡女子大学)・助川泰彦 (東京国際大学)

**研究の目的**

本研究の目的は茨城県東茨城郡大洗町の日系インドネシア人移住労働者とその子どもたちが形成するコミュニティ(以下、日系インドネシア人コミュニティ)において「高校卒業後に日本で就職した日系インドネシア人コミュニティの子ども」のモデル(以下、高卒モデル)が存在するにもかかわらず、そのモデルを参照することができないという現状を改善することである。

**研究の意義**

自分の将来を考えると、モデルの存在が必要であるが、日系インドネシア人コミュニティにおけるモデルの存在はまだ数少ない。移民のコミュニティにとって、モデルの存在は子どもだけでなく、その保護者にとっても重要な存在である。本研究の意義は、高卒モデルを日系インドネシア人コミュニティの成員が参照することによって、保護者と子どもの進路決定における選択肢を広げられることにあると考える。

**研究方法**

大洗町の日系インドネシア人高卒モデル2名に自らの経験を振り返ってもらうために、PAC分析(Personal Attitude Construction Analysis)を用いた。

**結果と考察**

PAC分析の結果から、高卒モデル2名の就職に影響を及ぼしたと考えられる周囲の人や事柄は、「進路を決める相談相手、進路に関する情報の供給源としての中学校3年生時の担任教員」、「高校3年生時の担任教員の進学に関するアドバイス」、「自分のやりたいことだけで進路を決めていいかどうかの不安・悩み」、「キリスト教徒として「神様の意向」、「自分の信念」に応じてくれる牧師の存在」、「自己投影の対象としての聖書」等があった。

2名とも進路で悩むことはあるものの、中学・高校3年生時の担任教員や家族といった身近な大人のサポートが得られたことが重要だったと考えられる。また、「自己投影の対象としての聖書」と「自分の信念」と「神の意向」に応じてくれる牧師」という宗教的な精神面でのサポートの存在は注目に値すると考えられる。

付記1 本実践はNi Nengah Suartini(Universitas Pendidikan Ganesha), 八重樫 理人(香川大学)の2名の共同実践者を含む。

付記2 本実践はJSPS 科研費 JP26370612, JP15K02627 の助成を受けたものである。